

# SSTK 通信

## NO.221



共に育ち学び合うための学習会・2022春 秋池君を囲んで

第8回定期総会は 5月29日(日) 13時受付開始  
浦和コミュニティセンター 第15集会室

### 221号 もくじ

定期総会・シンポジウムのご案内・・・2/ 制度改革埼玉セミナー報告(センター21 通信より転載)・・・3/ 私の暮らしあなたの暮らし(会員からの声)・・・7 地域の中でのお店  
夢テラスを訪ねました・・・12/ 埼玉県庁内「福祉の店」アンテナショップかっぽ・・・  
13/ 障害者とともに歩む会「夢テラス」の閉店・・・16/ いっしょにいることから始めよう～「輪っふる」のそもそも・・・18/ 「共に過ごす」は教師が変わる、こどもが変わる報告...20/ 転載「学校の中の「差別」を考える(教職研修 2021.1 より)・・・21/ 故飯田力元理事葬儀挨拶・・・22/ 会費納入ありがとうございました・・・24

## 一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会

〒356-0006 埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘三丁目1番24棟-403号

Tel 090-7906-9124 Email [jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp](mailto:jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp)

郵便振替: 00180-2-566719 または 038 普通貯金 9486343

<http://www.saii.or.jp> FAX 048-737-1489

発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町十五-九 アステール藤野一階

## 第8回定期総会記念シンポジウム

# 新座という「地域で生きる・地域で暮らす」

報告者: 斎藤 はつえ さん(NPO 法人にんじん畑代表)

チームち-こと(百石琴菜さん・千純さんほか)

コメンテーター: 佐藤 陽さん(十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科教授・埼玉県障害者施策推進協議会座長)



斎藤さん(写真右)は、にんじん畑の活動だけではなく、地域福祉推進協議会の一つの地区の担当をされているので、そんな話もしていただきます。

チームち-ことさんには地域で始めている様子を十分に報告していただきます



落ち着いてお話を聞けていたのに、写真のタイミングが悪く怒っている写真に。。。  
夜のともに広場…初参加♥  
いつかゲストスピーカーによばれるといいなあ

盛沢山の活動ですが、元気が基本！皆様も元氣にお過ごしください。また来年お会いしましょう♪  
(文責 チームち-こと 河田恵美・百石美貴)

佐藤先生には、新座の中で今まで行われていた地域福祉推進協議会の活動と介護保険の地域共生との関係についてもお話ししていただければと現在調整中です。

## 一般社団法人埼玉障害者自立生活協会

### 第8回定期総会

日時 2022年5月29日(日) 13時15分

場所 浦和コミュニティセンター第15集会室

一般社団法人 埼玉障害者自立生活協会 第8回定期総会 ZOOMリモート用

<https://us06web.zoom.us/j/7334156655?pwd=aDhhdVIRcmNlVUNlL3hIT2hmb1Fwdz09>

ミーティング ID: 733 415 6655

パスコード: 7uJLu3

# 障害者権利条約審査のポイントと県内の現状

## ～脱施設・インクルーシブ教育～

### ―障害者制度改革埼玉セミナー第13回報告

3月12日（土）午後、岩槻駅東口コミュニティセンター

において、社団法人埼玉障害者自立生活協会の第13回障

害者制度改革埼玉セミナーが行われた。私（有山）は

ZOOMを使って、自宅から参加した。

講師はDPI日本会議副議長の尾上浩二さん。セミナーの

常連講師で、尾上さんの話を聞くことで、日本の障害福

祉制度の動向を定点観測できる。今回は「障害者権利条約

審査を前に～脱施設・インクルーシブ教育を中心に」とい

うテーマだった。

2014年に日本も批准した障害者権利条約だが、これに参加した国は条約に基づいて

障害者の権利をどのように守っているか、国連障害者権利委員会の審査を受けることに

なっている。この審査が来年ある。この審査で問題になりそうなのが、日本の障害者分離

教育とへらない入所施設だ。尾上浩二さん

は、ここに焦点を当てて講演した。

権利委員会から日本政府への事前質問事

項は、権利条約1条から33条について66

問。日本政府の回答期限は2022年6月。その

中で、尾上さんが取り上げたのが2か条。

第19条（脱施設化・地域生活支援）につ

いての質問は、

a：入所施設の障害者と施設を抜けた障害者の性別、年齢、居住地などの現状は？

b：脱施設化の短期戦略・長期戦略と社会資源（財源・人材・物資など）の配分は？

→ 地域移行が停滞し、施設も地域生活もという日本の現状から脱却して



いく施策を。

第24条（インクルーシブ（包容）教育）についての質問は、

a：障害児を分離した学校教育からインクルーシブ教育に移行するための立法、政策、社会資源の配分は？

b：一般教育における障害者への合理的配慮は？

インクルーシブ教育についての教職員への研修は？

c：ほかの生徒と比較した障害のある生徒の退学率は？

→ インクルーシブ社会はインクルーシブ教育から。地域の学校で学ぶことを原則にした就学決定に。

講演の後、参加者からそれぞれの場の現状報告があり、尾上さんがこれにコメントした。

『チームちーこと』（新座市）

双子姉妹の障害者で、親元を離れ、ヘルパー、全身性介護人派遣事業、地域の人たちに協力してもらいながら二人暮らしをしている。

日中は、下記のような様々な活動を地域で行なっている。

○週一回、バス停の清掃

○小学校児童の登下校見守り・・・活動を始めて4年。通学路には信号のない横断歩道もあり危険がたくさん。児童が安全に登下校できるよう、日々、見守っている。

尾上さんコメント：できるだけ社会から障害者を見えないようにしているという目的で多数存在している入所施設や分離教育とは正反対の、障害当事者による、バス停清掃や登下校見守りなどの定期的な地域活動は大阪でもやっているが、「障害者の存在を社会に気づいてもらう」「社会の中で自分たちの存在を示す活動」という意味で意義深い。

障害者運動が盛んになり始めた1990年代、先輩から「我々障害者

は24時間無償で街のバリアをチェックしていて、情報の蓄積がある。その情報を是非まちづくりに活かすべきだ」と言われていた。現代のまちづくりに反映させるため、今後も活動を継続して頑張りたい。

センター21（ふじみ野市）

「計画相談」を専門に事業をやってきたが、法律の枠内でしかできない事業で、様々な制約があった。仕事量に比して職員の報酬が低額で職員を増やすこともできないため、やむを得ず今年度末で事業を休止することとした。



尾上さんコメント：様々な可能性を生み出し得る「セルフプラン」を活用してみてください。

## どの子も地域の普通学校へ連絡会(竹迫さん)

分離教育がいまだに多い現状。支援学級は、県内すべての小学校・中学校に作るという動きがある。進学を控えた障害児の親が「保育園、幼稚園では皆と一緒だったので、今後もそのままだがよいなと思っている」と、私たちのところに相談に来る。最終的には不安を感じて。普通学校に行きたいと相談してみたものの、ほったらかしにされる不安から支援学校へというケースが多い。

埼玉県内高校のエレベーター設置率は25パーセントほど。設置されていても高層階や特別教室に行くには昇降機で手伝ってもらわないといけなかったりで、バリアがある学校が大半。

また、行きたい学校の最寄り駅が無人駅であるケースとか、様々な場面で「差別されている」と感じている。



尾上さんコメント：学校現場が昔から変わっていないという報告には、すごく重たいものを感じた。トイレさえ、いまだにバリアがあり時には我慢せざるを得ない、そういう環境下に置かれた障害を持った子どもは、「私はここにいていいのか？」というプレッシャーを常に感じて、縮こまった生き方を強いられているのでは、と想像する。私自身は大学入学後に障害者運動に出会い、『バリアを改善してほしい』、と主張して良いんだと初めて知った。のびのびと生活できる環境が整った高校へ多くの子が進めることを願う。障害を持った、同世代の仲間を作り長く交流してほしい。

## <会場参加した感想>

下重美奈子

『チームちーこと』の紹介。重度障害者の双子姉妹を自立させようとした親の決断と、姉妹を地域で支え、色々な地域活動に誘い込んだ多くの人たちの暖かさに感心した。尾上さんが言うようにこうした活動を継続し、たくさんの人たちと交流を深めてほしいと思った。

教育の分野では、校舎等のバリアフリー化を進め、普通学校、特別支援学校のどちらに行きたいか、障害を持つ子どもや家族が自由に決定できるようになってほしい。

## ちーことNEWS

## R3.11月年末号



### 【チームちーこと】近況報告・・・

※【チームちーこと】とは、百石琴菜さん＆千純さんの日々の生活を楽しく充実した毎日になるように、24時間支援しているヘルパーさん達や共に活動してくれている地域の方々です。

ようやく緊急事態宣言も解除され、少しずつ活動も再開しています。

千純さんは、2回目のワクチン接種の翌日に発作を起こし救急搬送されました。大事に至らず、治療後入院せずに帰宅出来ましたが、1週間経過観察が必要でした。その後も容態は安定し、今は元気に毎日を過ごしています。

### 「新座ひまわりプロジェクト」

新座総合運動場のひまわり畑の種取りをしました。

収穫できた種は、全部で40kgでした。

例年通り福島へ送りました。



共育シンポジウムにオンラインで参加しました。パソコンに自分が映ってる?! キョロキョロと興味津々でしたが、こんな参加形式もあります。



### フローンボードで自宅PTにチャレンジ!!

いつもとは違う視線にテンションが上がります。

DVDを立ち見です。



期日前投票の様子です。少しずつ改善している新座市の投票方法ですが、誰もが平等に投票できるよう活動を続けていきたいと思っています。



今回、埼玉セミナーで出会った「チームちーこと」。

今年の総会後のイベントのテーマは、新座という「地域で生きる」(仮) いろんな地域があって、その地域にあった暮らし方をしているたちの報告をしていただこうと思っています。ご期待を！

二〇二〇年は「コロナで団体の横のつながりは薄れてしまった。せつかく昨年「箱のない施設になつていない地域巡業」で、つながりかけたと思つたのに。でも、ふつと考えた。当協会の会員は団体ばかりではない。個人会員がたくさんいるじゃない。皆さん、今どんな風に暮らしていますか？今こそ お互いを知りあうチャンスとこのコーナーを作ってみました。次号にはあなたもぜひ！

# 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—

みなさんこんにちは。須藤勇一です。64才です。川越市の一軒家で一人暮らしをしています。

以前はお父さんとお母さんと3人で暮らしていましたが、親は亡くなってしまいました。今はヘルパーさんにいろいろ助けてもらいながら自分の家で暮らしています。

平日は川越第3いもの子作業所(生活介護)で紙をちぎる作業をしています(再生紙

作成)。土曜日は川越の地域生活支援センターに行つて、楽しく過ごしたり、運動をしたりしています。ここには若い女の職員さんがいるので顔が赤くなつてしまいます。嬉しいです。

毎週2回、マッサージの先生が来てリハビリをしてくれます。

お金のことは後見人さんがやってくれます。二人三脚のヘルパーさんも買い物をしてくれます。

自然が大好きで花や山を見るのが好きです。

上福岡障害者支援センター21の小田真さんは昔からの仲間です。

今年の8月で65才になりますが、作業所で仕事を

頑張つて、いつまでもお家で暮らしていきたいです。





## いまの暮らし・その中で思うこと

朝日雅也(埼玉県立大学 教員)

越谷市にある埼玉県立大学で教員をしています。本学は 1999 年に設立されました。現在、保健医療福祉学部に 5 学科があり、私は社会福祉子ども学科に所属しています。設立時から勤務しておりましたので、これまで多くの卒業生を送り出す機会にも恵まれてきました。

大学では、障害者福祉や関連する分野を教育研究の領域にしています。埼玉障害者自立生活協会については特に一緒に活動をしている訳ではなく、賛助の意味合いが強いのですが、ニュースレターからは、障害者に関する、地域に根ざした重要な活動や思いがストレートに伝わってくるのがとても嬉しく、また有難いところです。

本学の教員はいわゆる「裁量労働制」「任期制」なので毎日の出退勤の時間にはしばられないものの、教育、研究、地域貢献、学内運営のそれぞれの分野で一定の成果をあげないと 5 年間を一区切りとする「任期」の更新が得られない仕組みであり、いわば「個人商店」の感覚で厳しい業務のマネジメントが要請される世界です。それゆえ、土日もない位の多忙を極める日々を過ごしています。そのような私も来年度一杯で定年を迎えますので、本学の教員としての歩みを踏まえた成果の発信に努めなければならないと思う今日この頃です。

さて、そんな中、現在の社会のあり様について、進歩改善してきた部分と憂いを禁じ得ない部分とが同居した思いが巡るばかりです。

例えば、バリアフリーやユニバーサルデザイン。根強い偏見はありますが、障害のある人のための特別なものという考え方から、普遍性のある

## 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—

概念への広がりを感じます。少しずつではありますが、これらの必要性が浸透し、ごく当たり前の社会環境として認識されつつあるのだと思います。

一方で、排除や区別といった行為はむしろ強まっているのではないかと懸念しています。制度やサービスが一見充実していくと、却ってその「対象者」としての位置づけが強まって、結果的に排除や区別に繋がります。しかも悪いことに、排除や区別としての認識ではなく、「親切」や「思いやり」あるいは「優しさ」という仮面を被ったまま拡張していくのです。

では、どうすれば良いのか。それは正しい思考を続けることです。世の中には「思考停止」の言葉やキーワードが蔓延しています。本当は中身がよくわからないのに時流に乗ったり、空気を讀んだり、時には同調したり、忖度したり・・・動機や理由は様々かもしれませんが、こうした言葉やキーワードを使ったり、あるいは使われたりする中で、「自分で考え、自分の言葉で表現してみる」機会が少なくなっている傾向を案じています。もしかすると、多くの人たちに思考停止してもらった方が都合の良い人や組織があるのかもしれません。このような言葉やキーワード、ましてやスローガンに踊らされて思考停止してしまうことなく、少しでも自分の価値観に照らして考え抜くことが、大きな過ちを避ける唯一の道なのかもしれません。



# 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—

## いまの暮らしその中で思うこと

木村俊彦（新座市）

2 回に及ぶ頭の手術を受け、活動の幅を広げ過ぎていたことを反省しました。2 期 8 年間続けてきた市議会議員は、2020 年 2 月の改選を機に、全盲の視覚障がいのある方にバトンタッチして引退しました。

これから地域福祉に力を入れようと、新座市北部第二地区地域福祉推進協議会（北二福進協）が主催する定例お茶会「まったり木曜」への参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、会場である「新座ふれあいの家」が 2 月 27 日を最後に使用禁止となりました。毎週木曜日に開催していた「まったり木曜」は、一人暮らし高齢者、障がい者等の安否確認や相談の場としても機能していましたが、地域福祉が目的としてきた「ふれあい」や「つながり」が三密として否定され、気にしていた人たちの消息がわからなくなりました。10 年間の積み上げが一気にくずれ、しばらくして〇〇さんが入院されたとか、××さんが亡くなったという話が伝え聞こえてくるようになりました。

私たちは仲間内で新座団地前商店会の一角に、空き店舗活用で「スペースともに」を確保していました。共に働く店「よろづや」を引き継ぐものとして、2015 年に高齢社会へ向けて障がい者を含めた「地域でともに」の知恵や経験を発信するためにオープンしました。しかし中心で活動する人が不在のため、昼間の時間帯はシャッターが閉まっていることも多々ありました。この場所を使って、4 月から毎週木曜日に「ともに相談」を始めることにしました。コロナ禍で隣近所のつながりが切れ、孤立した人にとって相談を持ち込める場が必要と考えたからです。

北二福進協としても、お茶会参加者への連絡体制を整えながら、7 月より「ともに相談」とタイアップして、「まったり木曜臨時立ち寄り所」を開催することになりました。「スペースともに」の前には広い歩道があり、商店会のベンチが設置されています。室内では換気に気を付け、外のベンチを拠点に、一人二人とお茶会参加者が顔を出すようになり、現在では毎週 60 人ほどの人たちが「スペースともに」を自分たちの大切な場として出入りされています。お茶代カンパとみんなが持ち寄ったバザー品の売り上げで、家賃や維持経費を賄えるようになりました。北二福進協は町内会・自治会、民生委員、各専門機関等が推進委員として名前を連ねていますが、今年度から推進委員だけでなく、各事業に参加する人たちを地域ボランティアとして登録いただき、広範な人々によって「ささえあいの地域づくり」に取り組むことになりました。「スペースともに」に持ち込まれる相談に対しては、出入りしている専門職や民生委員はもちろん、様々な経験を持つ高齢者や障がい者も総がかりで知恵を出し合っています。

障がい者が施設ではなく地域で暮らすことを志向してきた「スペースともに」が、コロナ禍の取り組みとして、地域の人々を巻き込んだ地域福祉拠点として意識されるようになって 2 年が経過しつつあります。

# 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—

まだまだ日々の疑問や悩みと  
おさらばできそうもありません

平岩和好(春日部市)

2 年前から仮営業所を自宅にして仕事を  
続けています。

私は埼玉県大宮育ちで 20 歳代の頃は  
定職に就かず、千葉市のふろ屋が持っ  
ていた屋敷に居候をしてアルバイトをし  
たり、知り合いの人に紹介してもらった北  
海道の無医村の村に医師ではあるが入  
植者と同じ条件で不妊(入植者の条件は  
3 年で与えられた 7 町 5 反、役 2 万 3 千  
坪を開墾するとその土地が与えられる)  
医療費が払えない人には開墾の手伝い  
をしてもらい半農半医として暮らしていた  
人を訪ね、三か月ほど住まわせてもらい、  
近所の農家の手伝いをしていました。(そ  
の人がのちの私の義父です)

その後も江戸川の電気屋の手伝いをし  
たりしていました。

私の父は銀座で和装小物や(1808 年)

(江戸時代末期、文化 5 年創業)を営ん  
でいました。30 歳を過ぎてから家業を手  
伝い始めました。前後して春日部市の武  
里団地に引っ越してきました。ポストに入  
っていた「わらじの会」との出会いでした。  
私の仕事のほうも支店廻りやイベントで  
動くことあり、「わらじの会」を手伝うこと  
もそんなにできなかったけれど、大勢の  
人が参加する「夏合宿」や「バザー」には  
ほぼ参加していました。いろんな人との  
かわりをとうして楽しく学ばせてもらい  
ました。

様々な人と出会い話し合う中で、人と  
は何か。暮らしとは何かなどなど考える  
ことは多いのですが、まだまだ日々の疑  
問や悩みとおさらばできない今日この頃  
です。

皆様、お変わりなくお過ごしでしょう  
か。  
この度は原稿の依頼が来まして何を書  
いてよいのやら迷いながら書いていま  
す。

2 年間、コロナでずっと家に居る状態  
でしたが、2 年が過ぎて仕事の依頼が来  
て昨年の 6 月から再び介護の仕事をし  
ています！！

東京の江戸川と埼玉の上福岡の二か所  
で仕事をしています！！今、一番気  
になつてゐることは、無図古賀 2 年間仕事  
をしてない状態なので、何とか息子の仕  
事を探したいと思っています。

知的障害は軽度であります、左手の  
指に少し障害があります。なかなか就  
労するのは難しいかと思つていますが、  
今はコロナ禍で仕事が減つてゐる状態な  
ので、さらに難しいのかなと思つていま  
す。

私自身、コロナを気にしながら毎週仕  
事に行つてゐます。

最近、コロナの後、オミクロン株まで発祥  
して本当に怖いと思ひ乍ら仕事に行つ  
てゐます。何時になつたらコロナが終息  
するのだろうかと思ひ乍ら生活してい  
ます。

早くコロナが終息して安心して生活がで  
きるよう、願うばかりです。

荻野幸子(清瀬市)

## 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—

### いまの状況は並行する 線路のようなものかもしれない

増田洋介（横浜市）

一昨年まで、大宮経由で JR 線に乗って都心まで通勤していたのですが、毎日のように電車が遅延するのでつらくなってしまい、横浜の外れ

に引っ越して 1 年ちょっと経ちました。

昨年、専門学校で非常勤講師の仕事をしました。社会福祉の授業を担当しましたが、そのうち 1 回、ゲスト講師として八木井雄一さんをお招きしました。当日は、八木井さんと私との対談形式で授業を行いました。

八木井さんにオファーした直接のきっかけは、「ねこのて壁新聞」の文章を読んだことです。県の障害者施策推進協議会で福祉教育についての議論になったとき、障害の疑似体験をさせるというような意見ばかりだったそうです。そんなのよりも障害当事者が講師になって経験談を話すとかのほうがいいし、自分の場合だったら障害者としてではなく自分の人となりを知ってもらいたいとのことでした。じゃあそこまで言うなら、ぜひ八木井さんに講師をしてもらおうと思ったのです。

でも、いざ打診してみると、自分の生活は普通だから何を話せばわからないと返事が返ってきました。八木井さんの普通っていったい何やねん！ 八木井さんの普通は、きっと普通の人が考えてる障害者の普通じゃないから。これはきっと面白い授業になると確信しました。

あともうひとつ、八木井さんにお願いしたのは理由がありました。それは言語障害があって、喋ってる内容がとにかくわかりづらいこと。八木井さんと私との話の中から「通じ合いにくさの面白さ」みたいなものがあることも学生に伝えればと思ったのです。

狙いは 120% 当たりました。授業後のリアクションペーパーには「とにかくびっくりした」「なぜ先生は八木井さんが喋っていることがわかるのだろう」などと感想が書かれていました。翌週の授業で、私は学生に伝えました。わかったふりするのが一番よくないこと、わかるまで何度でも聞くこと、このことは（この通信の読者にもいらっしゃる）先輩たちから教えてもらったということ。

一方で意外だったのは、八木井さんのほうも学生の反応にすごく驚いていたことです。先天性の障害なんだし、ずっと地域で暮らしているのだから、こういうのはとっくに通り過ぎてると思っていたのですが。

そして「ああ、お互いに今まで出会ってなかったんだな」と思いました。あたかも「地域で共に」になっているようであっても。

たとえばみれば、京浜東北線と上野東京ラインみたいなものかとも思います。大宮から東京・横浜まで線路は並行しているけれど、京浜東北線の電車が上野東京ラインの線路を走ることはないし、その逆もありません。同じ空間を共有していても、線路はあくまでも別々で、電車が相互乗り入れすることはないのです。

こんな状況は、障害のある人にもない人にも不幸以外の何者でもないと、大げさではなく思います。学生たちには、「福祉制度の充実って果たして良いことばかりだろうか」と疑問の目を向ける価値観も、ささやかながら吹き込むことができればと思っています。こんな価値観も、たしか先輩たちから教えてもらったものですから。



## 『今の暮らし・その中で思うこと』

小林(巢山)史子(長野市)

私は、今から 27 年くらい前、新座に「ふくしネット」にいざ（当初は「ふくしネット 2 1 3」だった）が出来た時から約 11 年専従をやっていた。

実家のある長野市に帰るため新座を離れることにしたが、仕事の都合で妙高市と松本市に 2 年ずつ住んだ後、11 年前に長野市に戻ってきた。障害者施設の職員や中学校の支援員、ホームヘルパーやデイサービスの介護員などいろいろやったが、今は生活者ネットワークの代理人として市議会議員をやっている。

最近自分の生活に足りない！と思うのは、家族じゃない人と雑談すること。そしてさらに圧倒的に足りないのは、その辺で会った人とちょっと会話をすること。ほんのちょっとした会話に私は飢えている。

スーパーとかで知らない人と「この大根おっきいねえ」「ほんとだねー」とか。

赤ちゃんを抱っこした若いお母さんのカゴをカートに移してあげて「かわいいね～」とか。したい。

自然に声を掛ける、それに応える。そんな、難しくない、ある意味あたりまえなんじゃないかと思うことが、日常の中にほとんどない。

多くの人が、「怪しまれる」「迷惑がられる」と、出来るだけ人と関わらないようにしているように感じるが、でも、こんなちっちゃなことが普通にできれば、いろんなことが良くなる気がするんだけどなあ。知らない人と話すのが仕事だったみたいなサイタマでの日々が懐かしい。

「近所のお節介おばあさん」になりたかったけど、今やそれは「迷惑な高齢者」なんだろうか。

お節介おばあさんは一朝一夕にならず～チャンスを狙ってする、という力が入りすぎた感じじゃなくて、機会があったらスッと人に声をかけたいな。

そんなことを思う日々です。

## 私の暮らし あなたの暮らし

—いろいろな地域からのメッセージ—



## 「かっぽ」の店番をやっています。

**社団事務局長 下重美奈子**

去年から「かっぽ」の店番を月3回、「ねこのて(川口市)」、「社団(当協会) 粋」の人達と一緒にやっています。

店番に入るきっかけは、上福岡障害者支援センター21の中にある介助者派遣をやっている事業所で不正請求が見つかり、所長であった私は、責任を取り所長を退きました。正職員でしたが、仕事を辞めたら時間の余裕が出来たと、社団の事務局会議で話したところ「かっぽ」店番に入ればと話があり、店番に入ることにしました。

普段会議等で関わる人達と仕事をするのも良い交流になっています。協働者レタスのクッキーの納品も私の仕事になっています。

「かっぽ」との関わりは長く、県庁内に福祉の店を立ち上げる為に準備会を行うから下重さんも行ってくれないかと有山さんに言われ、当時、社団の事務所だった蕨の八木下さんのマンションで会議をやっていた事は覚えています。センター21に入りたての頃だったので、内容が分からず話を聞いているだけでした。

「かっぽ」立ち上げ当初、店番をしていた時のことですが、お弁当が一日100個は売れていて凄く忙しかった事や、毎週、知的に障害があるHくんと一緒に通っていて、Hくんは賑やかで、電車の中でもうるさくして何回も注意をしたことを思い出します。Hくんには社会に出るという事の経験になったと思います。(今は彼もケーズデンキで働いて15年目になります)

今は、移動販売というやり方で県庁内を回っています。まさしく闊歩だなあ…

今のかっぽについては、何とか赤字対策を検討していかなければならないと思います。

社団事務局の仕事のために、スマホを使う事になりました。ところが、これが脳性麻痺の私には使いにくい… ハンズフリーでやっと電話ができるようになりました。固定電話からスマホに変えたおかげで料金が安くなりました。ちなみに自分用の電話はガラケーです…

**かっぽが本当につぶれてしまいます。  
皆さん、かっぽの運営にご協力ください**

**振込先:(郵貯)店番 029 当座 0107736**

**埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会**



# アンテナショップ「かっぽ」 県庁内「福祉」の店



2022年3月8日(火) (当協会 HP/かっ Facebook より抜粋)

今日のお店番 ねこのて(川口市)

寂しげな人シリーズ

本日はねこのての八木井さん。わか〜い実習生が帰ってしまった午後…。笑顔が曇り、力の抜けた表情…。本人はこの説を否定しておりますが、午前中は笑顔爆発だったので間違いないでしょう！

2022年3月1日(金)

今日のお店番 ぶあく(春日部市)

丁寧さよりも速さこそが全てで間違ってもそのまま突き進む流派のゆかさん。速さよりも丁寧さがウリで、作業がなかなか進まない流派のゆりさん。おふたりともそれぞれの持ち味で今日も仕事に励んでおります！



2022年4月4日(月)

年度が明け、2日目の営業日。

先月末日が棚卸だったため、商品がかな〜り品薄となっております。が、徐々に戻って行きますので少々お待ちください。さて今日のお店番は くまのバイカーズ(川越市)



午前販売までの間に値段付けやメニュー書きをしてもらいました！

メニューを書いてくれたSさん。職員さんが「書けるかなあ。文字を書いているのあんまり見たことないけど」と心配しておりましたが写真の通り、きれいな見やすい字で書いてくれました！

只今 13:10。午後販売まで時間があるのでお店番をしてもらっています。

2022年4月8日(金)

危機管理防災センターに植わっている桜が数日前まできれいに咲いている…と思っていたらあっという間に散っていました。

今日のお店番は 菅野さん・しんいちさん・野島さん。野島さんが来るまで菅野さんとしんいちさんは店内で作業。

段ボールを潰すしんいちさんを見つめる菅野さん。

「はさみ使った方がいいよ」と言っってはさみを取ってあげておりました。しんいちさんと一緒にの日はいつもより兄貴肌な雰囲気…。

そんな兄貴な菅野さんですが、本日早朝に第二庁舎に現れ、職員専用出入り口から入ろうとしたところ、警察官に職務質問されたそうです。

午前中お店番をしていると、その時に居合わせた警察の方が声を掛けに来て下さいました。少々バツが悪そうな菅野さんにお相手の方は「良かったです。お仕事頑張ってくださいね！」と。

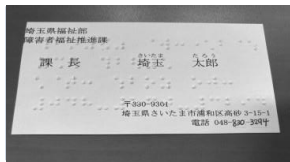
漢・菅野。本日もいろんな意味で頑張っております！





# 点字名刺を作成します

～より多くの人にとってやさしい名刺を～



(作成例)

## 【ご注文方法】

別紙「点字名刺申込書」に必要事項をご記入下さい。

## 【料金】

¥1,300/ 100枚

¥1,000/ 50枚

¥ 400/ 20枚

\* お一人様20枚からお受けします。  
100枚以下の場合、1枚につき点字加工料  
¥20を頂戴しますので、20枚 ¥400、50枚  
¥1,000となります。

【作業を行う施設】 地域活動支援センター レモンの木 (朝霞市)  
近年、バリアフリー化が進められていることや障害者の方の仕事に繋がることから、点字名刺が注目されています！

① ②  
レモンの木では、視覚障害者の方が1つ1つ丁寧に点字名刺を作成しています。

① 視覚障害の方が読み上げ機能の付いたパソコンで点字にする文字を打ち込み、確認。

② その後専用のプリンターで点字を打ち込んでいきます。

点字にする文字をパソコンで間違いなく打ち込む作業がとても大変です。



パソコンで  
点字文字の作成



点字打ち込み印刷

お問い合わせ

アンテナショップ かっぽ 048-830-7788(内線7788) 担当:板倉

なにか、かっぽを存続できるための事業展開にいいアイデアがあったら連絡ください！ かっぽアドレスは↓

[antennashop\\_kappo@yahoo.co.jp](mailto:antennashop_kappo@yahoo.co.jp)

昨年9月で新座のまるまる工房さんが閉店し、パンの販売が無くなり、かっぽフェスタが無くなり・・・

かっぽが本当につぶれてしまいます。皆さん、かっぽの運営にご協力ください

振込先:(郵貯)

店番 029 当座 0107736

埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

かっぽの存続を考えて、当協会の代表である坂本理事の提案で、かっぽで点字名刺の受付をすることになりました。

昨年、試行的に障害者推進課のみで受付をしてみました。

試行に行きつくまでに、何度も何度も珈琲時計さんや推進課とのやりとりをし、チラシも何度も作り替えました、2022年度4月からは埼玉県庁全庁舎を対象にPRしていきます。

## 名刺に点字お入れします

お手持ちの名刺に点字を入れることが出来ます。

\* 繊維が透き込んである紙や和紙、凹凸のある紙は名刺向きではありません。

\* 色つき、デザイン入りの紙にも点字を入れることが可能です。



## 【ご注文方法】

別紙「点字名刺申込書」に必要事項をご記入下さい。

## 【料金】

お一人様 100枚 ¥1,300  
50枚 ¥1,000  
20枚 ¥400

\* お一人様20枚からお受けします。100枚以下の場合、一枚につき点字加工料 ¥20を頂戴しますので、20枚 ¥400、50枚 ¥1,000となります。

## 【ご注文可能枚数】

一週間であわせて500枚までお受けできます。

## 【作業を行う施設】

地域活動支援センター レモンの木 (朝霞市)

こちらの施設を利用されている視覚障害の方が読み上げ機能の付いたパソコンで点字にする文字を打ち込み、確認。その後専用のプリンターで点字を打ち込んでいきます。点字にする文字をパソコンで間違いなく打ち込む作業がとても大変なことです。



お申込み期限 月 日 ( )

お問い合わせ

アンテナショップ かっぽ 048-830-7788(内線7788) 担当:板倉



## 地域の中でのお店 夢テラスを訪ねました---

10.19 門間、菊池、今井、小松

県庁内福祉の店アンテナショップかっぱへ届け物。昔店番をやっていたというよし子さんはお弁当販売の声出しを少し…。

見沼区東大宮にある『夢テラス』さんを見学に。洋服や靴・鞆類から食器等の他に自然食品やシャボン玉製品等仕入品も取り扱っていました。この日はボランティアさんだけ。店内所狭しと商品が置いてあるので車椅子の方が店番する時は通路確保



が大変そうでしたが外に出したりして通れるようにするそうです。現在ボランティアさんの時給は1日300円ちょっと。前は500円位だったと。店番に入ってくれる人は10人位だったそうです。ボランティアさんがお給料は要らないと言っても「世話になっているから貰って欲しい」と言われ、貰っているが店番に入り売れない日があると200～300円位応援購入してしまうとか。週2日水曜と土曜日が休み。コロナ前の休みは週1だったそう。2階に大家さんが一人暮らししているので毎日開けて人が出入りしてくれると安心と言われているらしいです。いい関係ですね。



今まで

はさいたま市から赤十字に年40万負担してもらっていたがコロナで貰えなくなった。一人暮らしの人への支援につかわれる。経営が苦しい。障害者は手当があるが子供はないからそっちに赤い羽根の協力金をまわしたいからだとか…。周りに大型チェーン店のリサイクルショップも増え、お客さんも少なくなってしまったと。



ハーブの飴はお手頃価格で美味しかったです♪ボランティアだと自己紹介いただきましたが突然の取材訪問にとっても詳しく説明してくれ、長くお店番を続けてくれている歴史がありもはや職員さんなのでは?という位頼りになる方達でした。

追伸：夢テラスは2022年3月末をもって閉店になりました。

# 障害者とともに歩む会「夢テラス」の閉店

夢テラス代表 吉田房子(蓮田市)

障害者の社会参加・就労の場としてリサイクル品・自然食品・手作りの店・夢テラスは発足して 28 年になりました。

障害者は措置されるだけの立場ではなく健常者とともに歩むべきと、行政からの助成を受けずずっと自主運営でやってきました。

最初のきっかけは東大宮駅前のビルを持つ篤志家から利用の申し込みがわらじの会にあったそうです。しかし、その時わらじの会には大きな企画があり現在の夢燈館の近藤さんにその話がふられ、そこから全責任は故深田紀子さん、傳田ひろみさん、市議だった江野本さん、私たち親娘等に誘いが広がりました。

野島久美子さんのところにも、娘モモがとまりに行ったこともあるというかわりから、野島さんが蓮田のももさんを誘ってあげてと言ってくれたときいています。

主旨に賛同したみなさんが 10 万円づつ出資して運営資金を集め、提供されたビルの一角を掃除し、看板を手造りしリサイクル品の提供を呼びかけ集めました。楽しい準備期間でした。

脳性麻痺で重度の機能障害(体幹四肢マヒ一種一級)をもつ娘のももは幼稚園の 3 年間、地元の小学校中学校、4 年生の通信教育の大宮中央国高卒業まで親子二人三脚で過ごしてきました。制度の整わないあの時代だから、それができたと思っています。しかし、卒業後の進路は決まっていませんでした。

前責任者の深田さんが夢テラスの土台を 5 年間で築きその間に出資金は戻されました。

引き継いで 23 年間、この間に百円ショップ、リサイクル店の乱立、価格破壊と言うべき大型店の進出で自主運営が厳しくなってきました。十数年前から社協の推薦で赤い羽根から家賃駐車場代の一部を管理運営費としてもらい、存続させることを目的に今までやってきました。

曜日ごとに障害者メンバーが店長となりボランティアスタッフ 2 名、三人一組の体制でした。

娘のももは金曜日と第 3 日曜日が当番でしたが、ほかの作業所と比べ賃金はかなり良かったと思います。オープン時の場所はビルオーナーの都合により 3 年間で終了し現在の場所に移りました。

コロナ禍、管理運営費の廃止、ボランティアスタッフの高齢化等そして何よりも大家さんと返却時は原状復帰という賃貸契約もあり、今が潮時と三月末で閉店を決めました。

夢テラルはももにはもちろん、私にとっても社会参加の場でした。大変なこともありましたが、魅力的な人たちとの出会い、伊豆潮風館への旅行、カラオケ大会、バザー、掘り出し物いっぱいの店内、楽しかったです。

スタッフ、地域の人たちの憩いの場でもあった夢テラスでした。

## いっしょにいることから始めよう～「輪っふる」のそもそも

OMIYA ばりあフリー研究会 傳田 ひろみ

「いっしょにいることから始めよう」というキャッチフレーズで立ち上がった「はあとねつと輪っふる」。2002 年にその芽生え的な動きが始まったので、今年でちょうど 20 年になる。50 歳台だった私も 70 歳代に。月並みな言い方だが、月日の流れは速いものである。目まぐるしく変化する時代にあって、この 20 年はとっても貴重だと思う。貴重だからこそこれから更なる動きを続けていくには時代の変化や周りの状況に合わせて再構築しなければならないと思う。こんなことを考えていた時に「輪っふる」誕生の経緯を書いてくれないかという原稿依頼があったので、10 周年記念誌を参考にしながら、そもそもの成り立ちをまとめてみる。

先ず「埼玉トヨペット」と「OMIYA ばりあフリー研究会」との出会いから。かつてトヨペットのショールームでは月 1 ぐらいで「パティオの森」というディナーショーをやっていた。招かれる人たちはお得意さまや業界の方々だったとは思うのだが、詳しくは分らない。そこに何となく周囲とは雰囲気の違いの違う人たちもいて、それが「福祉の人」たちだった。ばり研も招待され、私も華やかな場所に出ていくのが嬉しくて、洋服なんかも気にしながら出ていったのだろうと思う。そこで直接平沼社長と言葉を交わした記憶はなく、何故社長とつながったかは今もってよくわからない。当時の副社長が大学の先輩でそんなところからかなあ想像するしかない。とにかくばり研に次のような依頼が来た。「北与野にある埼玉トヨペット本社に『ウェルキャブプラザ』を開設するにあたり、このショールームをどう活用していくかを一緒に考えてほしい」。ショールームを無料開放、トイレも車いす使用に改修、会社からは担当の社員も配置するという信じられないような対応だった。これを逃す手はないと思った私たちはばり研は、ピカピカの会議室で何度も何度も話し合いを重ねた。その時の写真である。何で自分がこんな場にいなきゃいけないんだとでも言いたげな W 氏の姿がその場の雰囲気を象徴している。W 氏は新車を売りまくっていたバリバリの営業マンだったのに、どういうわけか社長に見込まれ、「このなんだかわけのわからない場所」へご栄転となったわけである。さて、よくわかんない場所でもとにかく名前を付けなくてはならない。「ばり研」「NEUE」とネーミングに調子づいていた私は、そのころはやっていたベルギーワッフルにヒントを得、ワッフルにしようと思った。車屋さんだから「輪」の字を使うことにし、「輪っふる」に、「はあとねつ」とシンボルマークは会社から頂いた。めでたく「はあとねつと輪っふる」の誕生である。その後、私は無責任にも W 氏とばり研の S 氏に後を託し、さいたま市議選に立候補するための準備に追われていくことになる。そして約半年後、2002 年 4 月に本社ショールームで大々的にグランドオープン。ウェルキャブ車のショールームにノーマライゼーシ



ョンの機能を持たせ、人々が集う、交流と情報交換の場として。

輪っふる初期のころやっていたことは、情報誌「かわら版」の月1回発行、ショールームにギャラリーをということで、障害のある方を中心に絵画・イラスト・書・写真・手工芸品などを展示、記念すべき第1回目は「小森洋司 展」だった。そしてこれはディーラーさんだからできる事、もしかしたら社長が一番やりたかったことかもしれないのだが、ウェルキャブ車を3ヶ月間無料で貸し出し、ユーザーの声を集めること。このモニター車貸し出しから鴻巣の農家の方と知り合い、田植え、稲刈り等々農作業につながっていく。宮城生まれのW氏の腕の見せ所ともなった。特別支援学校の職場実習の受け入れも始まったし、とにかく障害のある人もない人もごちゃごちゃしていた。雨の日、雨合羽からポタポタ落ちる水滴をぬぐおうともせずショールームを汚したりして文句が来たり、トイレの使い方でクレームがいたりのごちゃごちゃしていると大変は大変だったような気がする。



20年以上前、先駆的な活動を始めた「はあとねっと輪っふる」。その活動の一つ一つが埼玉トヨペットの中で事業化されて、しっかりしたものに定着していく。

手探りでやっていたものが、形になる。

それは私たちの活動でも同じこと。そして、最初に始めたポジションは、一つ一つの活動をはがされ、小さくなっていく。まして、それが制度になり時間とともに、なぜそれが必要だったのか？が見えなくなり、逆に足かせになっていく。

輪っふるの抱えている課題は、私たちの課題でもあるとつくづく思う(今井)

# 《 共に育ち学びあうための学習会・2022春 》

## 「共に過ごす」は

## 教師が変わる、子どもが変わる

3月27日、熊谷市市民活動支援センターで「共に育ち学びあうための学習会・2022春」が開催されました。ZOOM参加を含めて37人の参加がありました。地元の「遊 TO ぴあ」の皆さんや鴻巣の「あん」、埼玉高教組、さきたま新聞、童心社、また、地元の田並県議、越谷の辻県議、伝田さいたま市議(ZOOM参加)と多彩な参加者でした。仙台からのZOOM参加もありました。市役所記者クラブにチラシを入れてもらったところ「埼玉北よみうり」の取材もありました。(埼玉新聞と毎日新聞のイベント欄にも載せてもらいました。)

小学校教員の千代山さんから、離して学ぶのではなく一緒に学んでいくことが大事、差別は知らないからある、という、障害のある子どもを受け入れてきた体験によって語られる言葉の強さを感じました。

また、この春高校を卒業し就職する秋池優太さん(本誌表紙)、特別支援学校から高校進学し現在2年生の鈴木楓華さんの二人から学校や友だちのことなど直接お話を聞くことができました。

場所探しなど地元の「遊 TO ぴあ」さんにご協力いただき、遠出して直接顔を合わせて話せることがうれしく有意義な集まりになりました。参加された皆様、ありがとうございました。お疲れ様でした。

### 私の視点



東洋大学教授(建築計画)

五月 子 菅原 麻衣子

子どもの教育環境について障害の「社会モデル」の視点に立ち、日々研究している。障害は社会の仕組みがつくりだす。例えば、足が不自由な子が地域の学校に通いたくてもできないのは障害のせいではなく、学校にエレベーターや車いす対応トイレなどの環境が整っていないのが一因だ、とする考えだ。

3月2日付の本紙で、全国の公立特別支援学校で3740教室が不足していることが報じられた。特別支援学校に在籍する子が10年前から16%増えたことを、文部科学省の担当者は「特別支援学校への理解が深まっているからでは」とコメントしたが、これには疑問を感じる。

なぜなら、世界の潮流は日本逆をゆくからだ。障害のある子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育」の進展が評価されている国では、特別支援学校・学級の設置は抑制制の方向にある。通常の学校・学級で、いかに個別に支援し、学びやすい環境を提供できるかが追求されている。障害者の定義は国によって異なる面があり一概に比べられないが、日本はこのまま特別支援学校・学級の増加傾向に含めて、施設の総量を増やすことに注力するのだろうか。

特別支援学校・学級が増えることが、あらゆる子どもたちの成長や人生に望ましい教育効果をもたらしているのであれば、2014年に障害

### 特別支援学校生の増加

### 共生社会の視点で検証を

◆投稿は手紙:stien@asahi.comへ。採り場合、ご連絡します。電子メディアにも掲載します。

者権利条約を批准した日本では学校や学級を分けてもインクルーシブ教育や共生社会を実現できていると証明することになる。一方で、「分離すれども平等、は平等ではない」という米国の公民権運動における言葉も想起される。人種差別の問題から生まれた言葉だが、社会から受ける差別偏見や人権侵害という点で重なる。分けることが包摂ではなく、単なる分離になってはいないか。

問題なのは、日本ではなぜ特別支援学校・学級を選択する子が増え続けているのか、十分に検証されていないことだ。友達や先生に負担をかけるかもしれない、学校にエレベーターがないから……。そんな支援が手厚い特別支援学校・学級に行こう、と消去法や諦めから選択されていることはいないか。増加した要因分析や評価が急務であると考える。

また、障害のある子どもを保護者がインクルーシブ教育や障害の社会モデルの考え方に触れる機会が必要である。学校側にも、環境整備の工夫や合理的配慮により学びやすくなることのあるこの視座を持つてほしい。それにより、子どもたちにとっても、共生社会が多様性のありようをともに考え、創り上げていく実践的な学びの場になるだろう。

# 学校の中の 「差別」 を考える

## 第7回

### 学校の現状③ 障害

日本も締結している障害者権利条約は、障害に基づくあらゆる差別を禁じ、他の者との平等を基礎とした障害者の権利を認めている。教育においてはインクルージョンを原則とし、合理的配慮が提供されたワントラック制(すなわち普通学級)を国は整備しなければならない。しかし実際に普通学級に在籍する障害のある子どもは、特別支援学校相当とされる障害に関して、全国の小学生のうちおよそ1,300人とごく少数に限られている。

特別支援教育の対象者は増加し続けているが、人々を特別支援教育へといざなう引力とは何だろうか。筆者らが障害児への付き添い調査を行ったところ、送迎や校外学習、介助者がいないときなど保護者らが担う付き添いは広範に渡り、登校から下校まで終日付き添う人も多くいた。付き添いの解消を訴える保

護者はモンスターペアレント扱いされ、結論の変わらない話し合いを何度も繰り返し疲れ弊し、付き添いがなければ子どもが参加できなかったり介助されなかったりと、付き添わざるを得ない状況をつくり出され、さらに過酷な差別を学校側から受けていた。その向こう側には、「普通学級に入れてもらったから」「やめたいと言ったら子どもに何かされないだろうか」と疑問と本心を抑えてあきらめ、沈黙する、無数の保護者の存在がある。

「そこまで頑張らなければいけないのなら」と支援学校を選択する保護者らがいるのは想像に難くない。支配者側の都合のよい方向を自ら選ぶよう仕組み、合意に基づいて支配していくことをヘゲモニーという。付き添い然り、小・中学校でのいじめのつらい経験を胸に支援学校を選択する子どもの姿が浮かぶ。

特別支援教育が充実するほど、障害の有無による世界の隔たりは深くなり、障害のない者ら中心の社会の営みは維持されていく。

早期に障害を発見し、力を伸ばし、交流を推進する特別支援教育の促進が共生社会に向かうと国はいう。しかし子どもを分けなければ、交流する機会など必要ない。そもそも、子どもは力を伸ばさなくてもありのままの姿を受け入れる力をもっている。でなければ、「自分は/誰々は/どうして別の学級で学んでいるの?」という素朴な疑問は出てこないだろう。子どもは次第に学んでいく。どのような子どもが振り分けられ、何が評価され、適応しないと排除されることを。子どものなかで生じる差別やいじめと向き合うには、まず私たち大人が、教育そのものが生み出している差別と向き合い、変えることが必要だ。



三重大学准教授  
栗田季佳

## 訃報

長年当協会の理事をしてくださっていた、飯田力さんが 2021 年 10 月 14 日にお亡くなりになりました。葬儀はごく少人数で執り行われました。当協会からは神田理事と事務局の今井が参列させていただきました。

葬儀は熊谷の見性寺で執り行われました。驚いたのは、すべてバリアフリーになっていました。ご住職さんのお話では、飯田さんはお坊さんになりたかったそうで、よくご住職さんと地元の事やいろいろなお話をしにきていたそうです。だから、トイレも本堂も車いすであがるのが容易にできました。飯田さんが本当に生まれ育った街で活動をし、命を全うされたのだということが、こんな場面になってその様子を知る形になってしまいました。挨拶は一人息子の光さんが行いました。飯田さんと彼の人生が垣間見えた挨拶でした

2021 年 10 月 17 日 熊谷市万吉 797 見性寺にて

飯田 光さん挨拶

戒名 新帰元絶学力精居士(故飯田力 享年 74 歳)

お忙しい中にもかかわらず、故飯田力葬儀にあたり、多数心からのご配慮をいただきまことにありがとうございます。

父は大変勉強家でした。生前は星川の実家にいたときは、毎日部屋にこもり活字新聞を見て社会情勢を大変勉強していたそうです。昭和の時代の終わりごろから現遊 TO ピアの母体となる、熊谷住みよいまちづくり運動グループを設立し、ここ埼玉県熊谷市とともに歩んできました。そのあと、私が小学校 2 年生くらい、8 歳くらいの時に自立生活センター遊 TO ピアを立ち上げました。さらに夢かうつつか 25 年間くらいの歳月を経て遊 TO ピアは大変大きな規模になりました。

私自身もこうゆう類まれなる環境に育ち、知らない大人の人たちが出入りする環境に物心つくときには、普通の会社員家庭と全く違う環境に置かれていることに違和感を感じさせられずにはいられませんでした。なぜ両親だけこうなのだろうと思ったこともありました。

ちょうど西暦 2000 年にさしかかろうとしたとき、熊谷市籠原地区の南口に福祉の店 B 型というわんステップを開設した時も、父が高崎線に乗っていったり、送迎リフトの車に乗って職員のみinnで籠原のほうに行って、はつらつと職員利用者さんたちが活躍していることが印象に残っています。

障害を持っている方々の活動のせいかや介助時間も充実させ、身体障害のある人の行動範囲が広がったりするなどの功績を残しました。つくづくたくさんの人に愛されている父だったとつくづく思います。

父は私が二十歳になったときでも、それまでさんざん勉強や仕事などに打ち込んでこなかった私に対しても、誕生日を変わず祝ってくれました。さんざん親不孝ばかりかけました。そんな私ですが頑張れと言ってくれているようでうれしかったことを覚えています。

父が晩年 60 代くらいになっても、障害のある人たちが少しでも救えればいいとの信念で



連日、仕事に打ち込んでいました。遠く離れた浦和へ出張で行ったり来たりして、その姿は本当に生き生きとしていて、家に帰ると今日は疲れたと言っていました、充実感に満ちていたようでした。父のおかげで息子の私がいろいろな人と知り合えたことは大変よかったと思えます。もう少しだけでも父にいろいろと教わりたかったという後悔があります。

晩年 70 歳くらい過ぎたころは、やや体形が肥満気味だと気になることが、なんとかならないかなあと思っていましたが、昨年になると持病である糖尿病にひどく苦しめられ、尿の回数が多い、体がだるいなどという症状が現れ始めました。そしてとうとう昨年 11 月には活舌の悪いコミュニケーションが取れないという症状が出てきてしまい、今年 3 月半ばごろに熊谷総合病院に入院して、脳梗塞と診断されました。医者からこの冷酷な言葉を投げかけられたときには、父が今まで築き上げてきたものがガラガラと崩れるような気がして、もとの父に戻れないような予感がしました。

その後、6.7 月ごろになり、元気だった父の面影が徐々に薄らいできました。これは自宅には帰れない、どっか去っていくんだろう、夢なら冷めてほしい。その後、担当の医師に症状説明を聞かされて、漠然とした不安は確信に変わりました。その後、10 月 14 日に深谷の病院にてとうとう逝ってしまいました。今年一年は元気だった思い出はなく、家族としても寂しい一年でした。

生前は父が大変お世話になりました。私も突然の事なので、心は動揺していますが、残された母親とともに、頑張って生きていこうと思います。本日はお越しくださってまことにありがとうございました。



左から(光さん・房子さん・神田さん・今井)

力さんのご冥福をお祈りいたします

# 2021年度会費納入

ありがとうございました(順不同 敬称略)

会沢完、相原忍、朝日雅也、新井満、新井利民、荒井義明、石川澄、石川せい子・市原光吉、伊藤峰子・猪瀬佳子、内野かず子、今井和美・今井教男、梅沢博史、大坂富男、大野邦子・小川満、小田真、小田原厚子・小田原道弥・小野達雄・片山いく子、門平公夫、神田紘子、神田正子、菊池一範、木村俊彦、九石智子、倉川典子、黒古次男、後藤美智子・小林史子・坂口佳代子、坂口鶴子・坂本さとし、佐野なな子、柴田澄江、自治労越谷市職員組合、下重美奈子、鈴木紀代子、須藤勇一、瀬井貴生・関啓子、高橋儀平・高橋幸江・高柳俊哉・武井英子、竹迫和子・巽孝子、田中美恵子・千田潤子・津崎悦子、辻浩司、土橋俊二、伝田ひろみ、友野由紀恵、中山佐和子、並木理、新相勝巳、西蔭博子、沼尾孝平、野島久美子、橋本克己、橋本直子・服部日出雄、羽田亮介、林まり、原和久・半田清雄、樋上秀、平岩和好、平塚正樹、柊

崎京子、藤崎稔・古河誠・細川律夫、藤田行敏、本間亜紀代、前田直や、増田純一、増田洋介、正木敬徳・水谷淳子、宮坂知孝・森住由香里・八木井雄一、山下浩志、吉田久美子、ミヅ考える会、吉原広子、ZOO ふくしネットにいざ、埼玉県移送サービスネットワーク・協働舎タス、くまのベイカース、エエひまわり、生活ホームみどり荘、とことこの家・CFCひこうせん、(一社)みつくすビート、キャバツの会、所沢ファントム、ZOO太陽、はあとネット輪つふる、ZOOリンクス、地域自立支援グループあん、川瀬クリニク新入会員(復帰会員)鈴木倫子・荻野幸子

運営協力金・ご寄附

ありがとうございます。

相原忍、朝日雅也、石井樹章、石川せい子・今井和美、大野邦子・小川満、栗原彬、後藤千賀子、斎藤はつえ、鈴木紀代子、鈴木倫子、杉田秀樹、瀬井貴生、関

啓子、高橋儀平、田中美恵子・並木理、新相勝巳、羽田亮介、平塚正樹、古河誠・増田洋介、宮坂知孝、正木敬徳、わらじの会

振込先:郵便振替 00180-2-566719  
(ゆうちょ 038 普通預金 9486343)  
2022年3月31日現在・行き違いがありました場合はご容赦ください。  
2022年度の会費もよろしくお願いいたします

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会  
編集人 一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会 「通信」 NO221号 頒価 200円  
〒356-0006 埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘三丁目1番24棟403号 電話 049-266-4987  
通信編集部 〒344-0021 埼玉県春日部市大場690-3  
谷中耳鼻科内 電話・FAX 048-737-1489  
郵便振替:00180-2-566719 または 038 普通貯金 9486343  
E-mail: jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp <http://www.sail.or.jp/>